

宮坂昌之さん（64期）著『新型コロナ7つの謎』を読んで

上原 昇（2組）

免疫学の第一人者として知られる宮坂昌之さん（64期、上田市出身、京都大学医学部卒、大阪大学免疫学フロンティア研究センター招へい教授）による新刊『**新型コロナ7つの謎** 最新免疫学からわかった病原体の正体』（講談社ブルーバックス、2020年11月20日刊）を入手して一読した。

宮坂さんの前著『**免疫力を強くする** 最新科学が語るワクチンと免疫のしくみ』（講談社ブルーバックス、2019年12月刊）も読んでいたので、その続編ともいえる内容である。

私には専門的な内容については十分理解が出来ないが、コロナ禍が収束の気配が見えない今、時宜を得た著作ともいえる。

「プロローグ」と「エピローグ」にはなるほどと思わせる以下の記述がある。

「・・・ウイルスやその感染症に関して正しい情報を得て「健康リテラシー」を上げ、感染リスクを軽減するための合理的方法をとることが必要です」

「・・・マスコミ関係の方々が、しかるべき基礎知識を持たずに、他人からの不確かな知識提供（耳学問）に頼って動いている。曖昧な知識で行動するのですから、当然、書く記事の内容も、作るテレビ番組の内容も、皮相的なものにしかなりえず、科学的根拠の薄い、きわどい題材を扱って、購読部数や視聴率を上げるということが日常的な手段となる・・・」

そして最後には「・・・事実を正しく理解すれば、新型コロナウイルスに対してはむやみに怖がることはありません。われわれは自信を持つべきです。私は楽観的とまではいきませんが、必ず近い将来、新型コロナウイルス感染症には対処できるようになると考えています。」

皆さんにも一読をお薦めします。

https://honto.jp/netstore/pd-book_30598480.html

（2020年11月19日記）

以上